

意欲満々

Vol.6

この人に聴く

飛行機で世界一周する106歳児 昇地三郎さんが伝えたいこと

～禍(わざわい)も試練と受け止めて前進せよ～



自身が考案した棒体操用の棒の使い方を見せる昇地さん

しょうぢ さぶろう
昇地 三郎氏 しいのみ学園創設者
健康長寿マイスター・ギネス世界記録
ベストドレッサー2012特別賞

1906年(明治39年)8月16日北海道生まれ、広島師範、高等師範を卒業。広島文理科大学で心理学を学び、旧制の文学博士号を取得。また、九州大学で精神医学を学び、旧制の医学博士号を取得。ちなみに、旧制の文学博士号と医学博士号の両方取得したのは森鷗外(作家・軍医)と昇地さんの二人だけと言われている。

昇地さんは、兄が陸軍見習士官に任官した大正12年から久留米をしばしば訪問、終戦後も福岡学芸大学(現福岡教育大学)付属久留米小・中学校の創立に携わり、更には、久留米大学医学部で心理学を教えていたこともあり、久留米とは縁が深い。

そんな昇地さんが、96歳まで二人の子供と妻の看病を続ける日々が続いた。昇地さんの長男は1936年に、二男は1947年に生まれ、幼くして二人とも脳性小児麻痺を患った。その当時は、今のように医療や教育施設が整っている時代ではなく、長男はひどいじめにより学校を退学、二男は小学校に行くことすら許されない状況であった。

その後、昇地さん夫妻は、「しいのみ学園」[®]を創設。知的障がいのある子供たちが楽しく学べるように心血を注いだのには、そんな背景があったからである。後に、パーキンソン病を患い体が不自由になった妻を合わせると、介護の期間は実に60年にも及ぶが、昇地さんはそれを苦労だとは思っていない。昇地さん曰く「その証拠にこうして元気に106歳を迎え、活動的に暮らしています。健康長寿は誰にでもできる!苦労が多いから長生きできないなんてことは決してありません。」

※1954年、昇地さんが48歳のときに創設した日本初の重複障がい児教育施設。創立当時の様子を記した著書「しいのみ学園」は当時120万部を超えるベストセラーとなり、映画化もされて大ヒット。

現在は、教育者としての成果を集大成した「手作りおもちゃ親子愛情教室メソッド」をもとに、幼児教育・家庭教育の大切さを説く講演や、自身が実践してきた、脳と体がともに健康で長生きするための習慣をまとめた「十大習慣健康法」の講演等を精力的に行っている。昇地さんがまとめた「教育十大原理」[®]は、通常の高等教育等では得ることができなかった貴重な体験、すなわち障がい児とひざを突き合わせ、「子供と一緒にいれて遊べればいい」と、自分も子供になりきって接することに努め、初めて分かったことが土台となっている。ちなみに、この考え方は「経営」という観点から人材育成を行ううえでも参考になるものと言えよう。

※活動(=ゆさぶり)、興味、許容、賞讃、自信、予見、変化、集中、共在、体感の10の原理で表した子供の生き抜く力を育む教育法「106歳を越えて、私がいま伝えたいこと」(こう書房)

昨年、公共交通機関を使って世界一周をした最高齢者としてギネスブックに認定された昇地さん、実は2005年(99歳)を皮切りにこれまでに7回世界一周をしている。昨年7回目のきっかけは、南アフリカのケープタウンで開かれた「第30回国際心理学会」への出席。せっかく旅に出るなら目的地に行き帰るだけではつまらないと、カナダ→ブルガリア→ポーランド→ロシアにも立ち寄った。

昨年11月には、活躍するおしゃれな著名人に贈られる「ベストドレッサー特別賞」を受賞。

106歳を越えて、 私がいま 伝えたいこと

今からでも遅くはない!一冊を試練と受け止めて

昇地 三郎



意欲満々
この人に聴く



左:藤吉調査部主任29歳、中央:昇地三郎さん106歳、右:本多取締役企画部長50歳

連絡先

〒811-1302 福岡市南区井尻1-40-6
TEL・FAX:092-591-1531
e-mail:shiinomi104@yahoo.co.jp
ブログキーワード:106歳・昇地三郎
秘書:古賀毅敏
坪根ちか子(携帯:090-4488-5300)